

舞 謠 會

令和二年二月九日(日)
午前十時三十分始

国立能樂堂





梅香芳しき好季と存じます。

本日は、舞謠會におはこび頂き、ありがとうございます。

ご出演の皆様に、心よりの御祝いを申し上げます。

日頃よりお稽古にお励みの皆様には、その御成果を表なさる場として、国立能楽堂は格別なる思いがおりになると存じますし、感動は一人の事と存じます。

本日は、翁が上演されます。

翁は、能楽において最も格式を重んずる曲でございます。御能も名曲が三番ございます。

早春の良日、社中の舞台を御観覧頂きますことに、心より感謝御礼申し上げます。

令和二年二月九日

舞謠會輔導

九世 橋岡久太郎



社中総代挨拶

堀田 正典

このたびは、国立能楽堂におきまして、舞謡會の発表会が開催できますことは、誠にうれしく、皆様、まことにおめでとうございます。

また、橋岡久太郎先生の日々の御指導に深く深く感謝を申し上げます。

日本の伝統芸術にして、六百有余年の歴史を持つこの能楽に直接触れる機会をいただいていることに感謝いたしたいと思います。

発表会にあたり、皆様の日々の精進の成果を存分に発揮されますように。また、舞謡會のますますのご発展を願っております。

令和二年二月九日

12:00

国立能樂堂

令和二年二月九日(日)

午前十時三十分始

組番

独謡

高砂

佐野 忠信

翁

面箱 小笠原弘晃

三番三 小笠原 匡

千歳 橋岡 仲明

三番三後見

泉 慎也
山下浩一郎

能

ツレ 橋岡 仲明

シテ 松原 章

高砂

ワキツレ 矢野 昌平

ワキ 福王 和幸

ワキツレ 村瀬 提

大鼓 大倉正之助 太鼓 小寺真佐人

脇鼓 田邊 恭資

頭取 古賀 裕己 笛 藤田 貴寛

手先 清水 和音

アイ 小笠原弘晃

後見

梅若 雅一
梅若 修一

地謡

斎藤 和則 山中 迺晶
岩崎 哲也 岡田 晃一
坪内比路之 荒木 亮

14:25

13:40

井

羽

巴

独
謡

舞
囃子

独
謡

筒

衣

江原
現子

堀田
正典

小谷田香代子

大鼓
大倉崇太郎
小鼓
古賀裕己

太鼓
小寺真佐人
笛
藤田貴寛

地謡
小谷田宏
橋岡伸明

梅若雅一
橋岡久太郎
梅若修一

16:45

15:00

鶴

融

楊

貴

妃

シテ

野池

尚美

能

舞囃子

亀

独
謡

ワキ

福王

和幸

アイ

小笠原

匡

後見

梅若

雅一

橋岡

信明

星

郁雄

齋藤

初美

大鼓
小鼓

大倉崇太郎
田邊 恭資

太鼓
笛

大川 典良
藤田 貴寛

地謡

橋岡
山中

伸明
逐晶

梅若 雅一
橋岡久太郎
岡田 晃一

大鼓
小鼓

白坂 信行
古賀 裕己

笛

藤田 貴寛

地謡

岩崎 哲也
宮内 美樹

坪内 芑路之

山中 逐晶
梅若 修一
岡田 晃一

19:00

猩々

素 謠
ワキ 堀田 正典
シテ 田中 茂

17:40

安達原

能
シテ 寺田 俊也
ワキ 福王 和幸
ワキツレ 村瀬 慧
アイ 小笠原 匡

坪内 芑路之
山中 逐晶
後見
橋岡 仲明

江本 知正 岩崎 哲也
安達 修子 荒木 亮
地謠
小寺 律子 宮内 美樹

17:30

勸進帳

独吟

小谷田 宏

太鼓 白坂 信行
小鼓 田邊 恭資
太鼓 大川 典良
笛 松田 弘之

(終演予定午後七時二十分)

翁付能

高砂 松原 章

本日は、橋岡久太郎先生の格別なるお許しにより、翁を披かせて頂きます。

翁に続き、能「高砂」も勤めさせて頂きます。

翁付キ高砂、身の引き締まる思いの舞台でござい
ます。

今までに「金札」「高砂」「土蜘蛛」「舟瓣慶」「道成寺」
「羽衣」「田村」「融」「鉢木」等をいたしてまいりました。

「翁」も「高砂」も、最も勤めたかった能です。

橋岡久太郎先生の丁寧なお稽古に毎回恐縮いたしな
がらも励んでおります。

橋岡先生はもとより、お相手くださる梅若先生、岡
田先生はじめ当代一流の先生方にも感謝御礼申し上げます。



能

楊貴妃 野池 尚美

今回は、楊貴妃を舞わせていただきます。

平成十六年の春、橋岡久太郎先生のお舞台を拝見し
ました思い出の楊貴妃でございます。

幽玄の世界を垣間見て、その美しさに感激し楊貴妃
の切なさに心打たれました。

白楽天の長恨歌の一節で詠われている「比翼の鳥、
連理の枝」など美しい語句が至るところに散りばめら
れており、お謡のお稽古は愉しみな時間でした。前回
の舞謡会から一年と、時の経つのが速く先生はお稽古



の進み具合に気をもま
れたことと思います。
心身ともに健やかで過
ごせた感謝の気持ちで
勤めたいと思います。

能

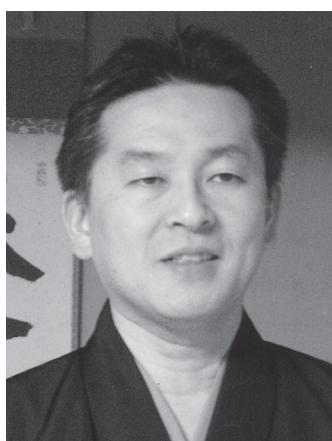
安達原 寺田 俊也

橋岡久太郎家の御先代、久馬先生のお舞台から学ばせていただいたことは測りしれませんが、その一つが佐倉城薪能での「安達原」でした。この曲は安達原の鬼婆のお話として大変有名ですので、皆さま、ご存じのことと思います。事実、能としての公演も非常に多く、見る機会の多い演目となっております。

久馬先生の「安達原」は、様々の点で目を瞠るものがありました。特に作り物(彼女の閨)の扉の開け閉め、途絶えることのない閨への思いなど、前シテの演技が一つ一つ丁寧で、主人公の女のどことなく怪しげな様子、草深い野中で独り身を託つ寂寥感、そして夜寒を厭う秋の風情が舞台に満ち満ちていました。このように味わい深い「安達原」は、それ以前もそれ以降も拝見したことはありません。

今回、幸運にもこの「安達原」を演じさせていたくこととなりました。鬼の能は18年前の「道成寺」以来となります。どこまでできるかは分かりませんが、主人公の底知れぬ悲しみや作品の情緒を幾ばくかでも出せれば、と思っております。

素晴らしい能の伝統を受け継がれていらっしゃる橋岡久太郎家の、ますますのご発展をお祈り申し上げます。



舞囃子

羽衣 小谷田香代子



橋岡先生の優しく真摯なご指導のもとに、この度は「羽衣」を舞わせていただくことになり感謝いたしております。

「羽衣伝説」として名高いこの名曲を演じるにあたり、緊張と共に喜びを感じております。

漁師の白龍は天女に羽衣を返すことをためらいますが、天女は「疑いは人間にあり。天に偽りなきものを」と嘆きます。そして、天女は羽衣をまとい、美しい情景の中を麗しく舞いながら、やがて天上へ消えていくという夢のような物語です。

あでやかな曲調に彩られた謡に合わせ、「羽衣」の魅力を少しでも表現できるように心を込めて舞いたいと願っております。

舞囃子
鶴 亀

亀

齋藤

初美



「鶴亀」でお舞台を務めさせて頂くのは二回目です。入門後四ヶ月で初舞台を仕舞で、この度は楽を舞います。

「鶴亀」は能楽を習う人が最初に稽古する入門曲とご教示頂きましたが、基本だからこそなのか、いつも大変難しい曲と感じます。楽は、シテがめでたさを感じさせるリズムに乗って舞を披露する部分です。

橋岡久太郎先生の優しくご丁寧なご指導に感謝申し上げます、楽しんで舞えるよう勤めたいと存じます。



独 謡
高 砂

佐野 忠信

謡を習い始めて七年。五曲目となる「高砂」を謡います。世阿弥という巨人に改めて感激いたしております。もの事を大きく広く捉えて、心深く審らかにする。人間性豊かな偉人でしかなし得ない業だと思えます。今回も橋岡先生のご指導より久々に国立能楽堂で謡わさせて頂きます。橋岡先生に感謝申し上げます。



独 謡
巴

江原 現子

橋岡先生との出逢いから12年余。9回目の舞台となります。私は今年7回目の干支を迎えることになりました。ここまでこられたのは、これ偏に橋岡先生の暖かいご指導と励ましたお蔭と感謝申し上げます。ひとえ

日本伝統のお能に携わり、魅せられてしまいました。

本日は異彩を放つ女武者の武勇伝。

木曾義仲を慕いつづけ、献身的な愛に生きた美しい「巴」。戦死した場所に祀られた義仲の祠を守り仕える一途な女の優しさと悲しい静かな場面を謡わせていただきます。愛あればこそその女武者、心根にお仕え出来ればと念じております。

独 謠
井 筒

堀田 正典



能楽堂でのお謡いは今回で五回目となります。
「猩々」「吉野天人」「巴」「楊貴妃」に続き、
今回は「井筒」を謡わせていただきます。

月に一度の橋岡先生の御指導のもと、この発表会を目標に練習に励んでまいりました。まだまだ未熟ではありますが、井筒の女と言われた紀有常の娘の業平を思う心、「人待つ女は 永遠の恋の夢の中に存在し続ける」と言う世阿弥の名作の心に、幾ばくでもふれることが出来れば誠に幸いです。

独 謠
融 星

郁雄



誠に早いもので、国立でのお舞台も四度目となります。
今回は世阿弥の名曲「融」をさせて頂きます。

これまで同様、橋岡先生のお稽古により、今日を迎える事が出来、心より感謝申し上げます。私事に涉り恐縮ながら、この曲の歌枕である塩釜は、以前宮城県に住みし時、何度となく訪れた場所です。又、大阪に勤務の際には会社の近くに源融ゆかりの太融寺がありました。

これらもまた、ありがたき縁かと存じ上げる次第でございます。

独 吟
勸 進 帳

小谷田 宏



橋岡先生のご指導のもとに、「安宅」を謡わせていただきます。

「義経記」を題材とする「安宅」は、現在能の代表作であるだけでなく、後世の様々な芸能その他の影響を与え、特に歌舞伎十八番の一つとして君臨しています。

奥州平泉へ逃れる義経一行が、安宅の関で関守富樫某にとがめられ、弁慶が勧進帳を読んで窮地を脱する名場面は、あまりにも有名で知らぬ人としてないでしょう。

また、義経と弁慶の決して揺らぐことのない主従関係・信頼関係は、潔い日本人の根本精神に例えられる侵さざるべきものです。堂々たる弁慶が吟ずる朗々たる謠を、いささかでも再現できるように、気持ちを集中し魂を込めて勤めたいと存じます。

独 謠
猩 々

田中 茂



猩々を堀田正典様と謡わせていただきます。
この猩々は、「堀田邸でお殿様と謠う會」と云う会で何回か練習に参加させて頂いたとき、堀田邸で謡わせていただきました。

そのご縁で、橋岡先生にご指導をいただくことになった記念の謡です。

月一回のお稽古では、なかなか覚えられず、発表会の日程が決まってからあわてて練習した次第です。

当日は、堀田様にご迷惑のかからないように出来るか不安です。国立能楽堂での二度目の舞台になりますこと、橋岡先生に心より感謝申し上げます。

イオン・ユーカリが丘イーストタワー2F

院長 野池尚美/(社)日本皮膚科学会(認定)皮膚科専門医

野池皮フ科

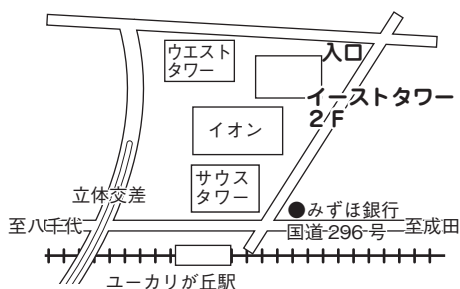
☎ (043)463-0072

佐倉市ユーカリが丘4-1 イーストタワー2F

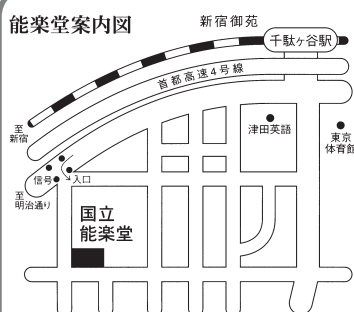
●受付時間 / 午前8:45～11:30 午後1:45～5:00
午後は予約制

●休診日 / 水曜・日曜・祝日・土曜午後

顔・はだ・皮フに
関する健康相談



能楽堂案内図



●駐車場がございませんのでお車でのご来場はご遠慮ください。

交通の御案内 (JR・千駄ヶ谷駅下車 徒歩5分)

●J R (中央線) 新宿一代々木-千駄ヶ谷-信濃町-四ツ谷

●都バス 早 ⑧1 原宿-千駄ヶ谷八幡-千駄ヶ谷駅前-国立競技場-四ツ谷三-早大正門
黒 ⑦7 目黒-西麻布-北青山三-神宮前二-明治公園-千駄ヶ谷駅前

国立能楽堂

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4の18の1 電話 (3423)1331(代)



橋岡會事務所内

舞 謠 會

〒285-0858 佐倉市ユーカリが丘4丁目1番

スカイプラザ・イーストタワー3101 電話 043(463)0840